

# 支え合う社会の実現へ

本県社会福祉研究者ら書籍発刊

## 実践テーマ 総合的に紹介

本県の社会福祉研究者らが、本県福祉の課題や現場の取り組みをまとめた「福祉課題への挑戦〜青森の未来へ〜写真Ⅱ」を出版した。子ども食堂や認知症カフェ、生活困窮者支援制度など、支え合う社会を実現するための実践を総合的に紹介している。

県立保健大の石田賢哉教授、工藤英明准教授、前同大講師で京都府立大の村田隆史講師らが中心になり2年前から準備し、計14人が執筆した。

県立保健大の児玉寛子教授は、青森市と八戸市の子ども食堂の運営の様子を報告。子ども食堂が、子どもの居場所のほか、高齢者や障害者を含む地域住民の交

認知症に理解を深めている様子を紹介している。村田講師は、県社会福祉協議会と社会福祉法人が協力して運営する「青森しあわせネットワーク」の現状を報告。制度の狭間(せま)にあって、緊急支援を必要としている人の助けとなっていることを説明した。

工藤准教授は、親が80代、子どもが50代になり、親子で生活に困窮する「8050問題」などの課題を抱える世帯へ、各関係機関が連携して支援に取り組む重要性を強調した。

弘前学院大学の小川幸裕教授は、司法と福祉の連携の必要性を解説している。

ほかに、学生の力を生かした障害児通所支援事業や、認知症サポーター育成の取り組み、重症心身障害児(者)を守る会会長へのインタビューなど、多様なテーマで本県の福祉の課題に焦点を当てている。

石田教授は、五所川原農林高校の生徒が認知症カフェに参加し、

流拠点に発展する可能性について言及した。

本書は泰斗舎刊。1500円(税別)。成田本店(青森市)などで購入できる。

(菊谷賢)

